



現場から（最近のニュースから）

まことの知恵



夏休みの時期になりました。子どもたちは、長い休みの間に、あれこれしたいこともあるでしょう。「夏休みは受験生の天王山」と言われることもあるくらい、受験生は、ここでがんばりたいと気合を入れる時かもしれません。

夏休みの勉強は、何時間しようという目標を決めても意味がないという記事がありました。時間で決めると、ただ勉強しても良いことになり、勉強の効率が悪くなることもあるからだそうです。それゆえ、ノルマを具体的に考えて、「今日はこの勉強を終わらせる」というようにして、本当にやるべきことを実行するようと言われています。（7/23 東洋経済「夏休み 600 時間勉強しよう」は何ともキケンな訳。「何時間勉強したか」で目標決めても意味がない！>より）

受験生でなくても、夏休みには、読書をしたり、美術館、博物館などを見て、知識を豊かにしようと思う人もいるでしょう。日本では「人の価値＝知識の量」のようにとらえられることも多いので、「勉強する」＝「知識・情報を得る」＝「能力・価値が高い」と思う人も多いのです。ただし、そのように知識をつけるだけでは、実際の仕事をこなすことは難しくなっている時代です。

知識は「ハードスキル」だとしたら、ソフトスキル、つまり「知識」そのものではなく「知識を使う」ためのスキルが必要だと言われている記事がありました。「得た知識を実際にどのように応用できるか」で、結果は大きく変わると言われています。日本での学校教育はハードスキルに偏っているのて、ソフトスキルを習得する機会はほとんどなく、実際に社会人になってからも、持っている知識を使えない場合が多いそうです。ソフトスキルの中でも、日本人が苦手なのは「説明力」（難しい内容や複雑な事象を短く、わかりやすく伝えるスキル）だということです。なぜなら、日本人は「言わなくてもわかる」（あ・うんの呼吸）、以心伝心で伝わるということを良しとしている文化があるからだと思います。話すときに大切なのは「相手が求めることを話す」のであって、「自分が話したいことを伝える」のではないということです。相手がなにを求めているのかということを理解する力「想像力」が必要だと言われています。（7月16日 NewsPicks「日本人に足りないのは、「知識」ではなく「知識を使う力」である>より）

学校の勉強では、本当にやるべきことを分別し実行して知識を得て、社会に出たら知識を使い、相手が求めることを理解して、分かりやすく伝え、知識を応用したら良いということでしょう。とてもすばらしい人のように思えます。しかし、どんなにそのように知識を積み重ね、知識を応用できても、どうしようもない問題にぶつかることがあります。人間は実際には、限界のある弱者です。また、夏休みは暑すぎて、結局、ただただ何もしないで終わる人のほうが多いでしょう。そこで自分がなんとかしようとするのは無理だとあきらめるのではなく、自分が生きる目的を見つける時にすることはできます。あなたの夏休み、まことの知恵とは何かを知る時にしてみませんか。



救いの道

だれでも幸せになって、うまくいきたいのに、なぜ人生がこんなにも苦しくてつらいのでしょうか。

予期せぬ事故にあい、やることなすこと、すべてうまくいかず、会社ではやりがいどころか、仕事と人に疲れるばかりです。学校は、もはやいじめの天国になりつつあります。家庭内は冷たい風が吹き、一つ屋根の下でばらばらになり、実際に崩壊しているところも少なくありません。そのうち体は病気になる、心も病んでしまい、眠れない夜が続きます。お酒や薬に頼り、ギャンブルや快楽に走ってみても答えはありません。わらにもすがる思いで占いをし、おふだやお守りをつけてみますが、解けそうにもなく、どんどんひどくなるだけです。

ときには、表では他人がうらやむほどの成功をおさめたのに、裏は穴が開いてもれていくし、隠れた問題でなげき、ため息をつきながら人生のむなしさを感じています。胸にはぽっかりと穴が開いて、埋められません。とても憂うつになって、時々、自殺の衝動にかられます。幻聴や幻覚に悩まされるときもあります。

なぜこうなったのでしょうか。



それは、人が神様を離れているからです。魚が水を離れ、木は土から根を放り出すと枯れて苦しみ死んでいきます。人は神様に会って神様とともにいるべきたましいを持つ存在です(創世記1:27)。ですから、神様と出会う時、すべての問題が解決され、新しい人生が始まります。しかし、人は罪を犯して神様を離れてしまい、二度と神様に会うことができなくなりました。そのときから、目には見えない暗やみの力が、人を運命の力に閉じ込めて、苦しめて滅ぼしているのです。それで、どんなに暴れても抜け出すことができません。どんどん疲れはてて倒れるだけなのです。



神様は苦しみの中にいる人を愛し、この運命の泥沼から抜け出して、神様に会うことができる道を開いてくださいました。その道がイエス・キリストです。イエス・キリストが罪人の私たちの身代わりとなって、十字架を背負い、すべての罪を赦してください(ローマ5:8)、私たちを苦しめていた暗やみと呪いの勢力を完全に打ち砕いて勝利なさいました(Ⅰヨハネ3:8)。そして言われます。「わたしは道であり真理であり、いのちなのです。わたしを通してでなければ、だれ一人として神に会うことはできません」(ヨハネ14:6)イエス・キリストは神様に会う道となりました。「疲れて重荷を負っている人はわたしのところへ来なさい。わたしがあなたがたを休ませてあげます」(マタイ11:28)と私たちを招いておられます。



もうこれ以上、苦しみの人生にとどまっている理由はありません。道であるイエス・キリストを信じることで、神様に会うことができます。「まことに、まことに、あなたがたに告げます。わたしのことばを聞いて、わたしを遣わした方を信じる者は、永遠のいのちを持ち、さばきに会うことがなく、死からいのちに移っているのです」「この方を受け入れた人々、すなわち、その名を信じた人々には、神の子どもとされる特権をお与えになった」だれでもイエス・キリストを救い主として信じ、心に迎え入れれば救われます。下の「受け入れのお祈り」を通してイエス・キリストを心に迎えることができます。

「愛の神様、神様の驚くべき愛と、救いの計画を感謝します。今、私は罪人であることを認めて、悔い改めます。私の心の扉を開いて、今、イエス・キリストを私の救い主、私の神様として受け入れます。私の罪を赦してください、私を救ってください。感謝いたします。これからは、神様のみこころに従って生きる者にしてください。イエス・キリストの御名によってお祈りします。アーメン」

相談のある方は、いつでも連絡ください